

4年間の振り返り

京都大学理学研究科修士1回生

大石 阜遥

学部の卒業式が終わり、数学教室の茶話会で呑気にお菓子を食べていたら、学部のセミナーを見ていただいていた先生からこの記事を書いてみないか、というお話を頂きました。断れるはずがありません。困ったことに僕は作文が上手でなく、同窓会誌への寄稿という仕事をひとりで引き受ける自信はなかったので、どうにかなれ!! と思い、同じく茶話会に参加していて、学部のセミナーで一緒だった比留木くんを巻き込みました。学部生の記事がふたつあるのはそういう事情です。

さて、本題に入らないといけない訳ですが、面白い案がないので、学部の振り返りをしてみようと思います。比留木くと被っていたらどうしようという心配もありますが、被っていたら「1年間同じセミナーをしていたら思考回路も似るんだなあ」と思うことにします。

1回生のころはまだコロナの影響で大学に行けず、オンラインで講義を受けることも多かった記憶があります。このころやっていたことと言えば、初めての自炊を頑張ってみるだとか、鴨川沿いを散歩してみるだとかで、講義以外で数学はあまりやっていませんでした。それでも後期になってからは対面の講義が増え、数学に対するモチベーションが生まれていたように思います。実際、今の僕の専門である確率論に出会ったのは1回生の冬でした。ルネで数学書を眺めていたら「確率論」と題された本が目に入り、「確率論って言葉カッコイイ!」と思って、測度論すら知らないのにその本を買いました。男の子って単純です。

2,3回生は上回生担当の講義を取ってみたり、自主ゼミに参加したりして、比較的頑張っていました。とくに、3回生になってから確率論専攻の先輩と多く知り合い、確率論の中でもどういう方向に進みたいのかが明確になり、これはとても有り難かったです。興味の方向性が決まったのもあり、やや気の早い研究室訪問を3回生の夏休みにしたのですが、実は研究室訪問当日の朝に財布を盗まれていまして、研究の話をしている場合にはなかったのかもしれませんが。この時にいろんな先輩、同級生が手助けをしてくれて、良い友人に恵まれた有難さを感じました。

4回生は講究やら院試やらがありました。割と楽しく過ごせていたと思います。院試前の気晴らしで、「京都って \mathbb{Z}^2 だしランダムウォークしてみよう! どのくらいで出発地点に帰ってこられるんだろう?」と思い、百万遍から出発してみましたが、行って帰っての

2歩で百万遍に戻ってきてしまいました。目的地を百万遍以外にして再挑戦すべきだったかもしれませんが、暑かったのでそのまま帰宅しました。あとは、講究のテキストに「定義を地の文に埋め込むな!!!」と怒ったり、卒業を賭けて代数学IIの試験に臨んだりしていました。僕を卒業させてくれたガロア理論には足を向けて眠れません。

振り返ってみても、僕としては概ね満足はいく、充実した学部生活でした。ただ、せっかく京都という素敵な街にいるのに、外に出て何かする、ということがあまりなかったことがちょっとした後悔です。修士に入ってから積極的に観光、とまでは行かなくとも、外出しよう!と思ったものの、どうしても今出川通りを渡る気力が起きず、ずっと北部キャンパス側にある自宅と院生室を往復しています。誰かに引きずり出して欲しいですね。

実は振り返り以外にもなにか書こうと思っていたのですが、それなりの分量になってしまいましたし、ややだらだら書きすぎてしまった感じもしますから、これで終わろうと思います。まとまりのない文章を最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



図 1: 青蓮院門跡。数少ないお気に入り場所です。